

令和6年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す 学校像	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校				
	○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校				
	○安心・安全な学校				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成 状況	
【学習指導】 学習状況を各教科ごとに観点別に評価し、その実現状況を分析し評価することができている。また、グループワークやペアワークを取り入れて互いに学び合う機会を設けた事により、積極的に学ぶ姿勢が見られる。生徒個々がタブレット等を活用し、互いに評価をすることができている。ICT機器を活用し基礎基本を重視した家庭学習をとおして「わかる」「できる」生徒が増えている。 教科内にとどまらず教員間での研修会等の情報交換を図ることにより、自律的活動力や自他理解など、学び続けるための基盤となる「態度・価値観」を育成していく。 連携型キャンパス制に向け、オンラインでの授業展開や探求活動等において対応の準備を図る。		生徒の個人的資質の向上	○基本的生活習慣の確立及び豊かな情操とコミュニケーション能力の向上	B	
			○授業、部活動、学校行事等、学校教育活動全体を通じて達成感、生徒の自己肯定感の向上		
			○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善による、新時代に求められる資質・能力の向上		
【進路指導】 求人票Web閲覧システムを構築し運用できたことで、家庭での求人閲覧が可能となり、より充実した進路支援をすることができた。また、履歴書のデジタル化を進め、業務の効率化を図った。 進路資料室の整備を進め、進路担当者とクラス担任が、各生徒の個性や適性を見極めながら、夢や希望に向かった支援を行った。 進路ガイダンス等の実施にあたり、各生徒の可能性を見出し、「やりたいこと」「できること」を広げる観点から、計画的に行う。また、自己理解、社会理解、仕事理解を促進する。 教員が民間企業を理解し、必要とされる人材育成を行う。		商業に関する専門的知識の育成	○教科内の連携による指導法の共有及び授業公開と意見交換による教員の授業改善	A	
			○タブレット端末や電子黒板等、ICT機器を有効に活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現		
			○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成		
【生徒指導】 規範意識の高い生徒の割合が増えており、生徒は落ち着いた生活を送っていることから、学校全体としての秩序が保たれている。足並みを揃えた指導体制が整えられている。 「服装指導票」が有効に活用され、主体的に日頃の身だしなみを改善がしようとする生徒がみられた。 SNSの活用について再度注意喚起を行い、家庭の協力も得ながネットモラルの必要性を根気強く指導していく必要がある。交通マナー、公共マナーについて指導し、社会性のある生徒を育成する。 生徒の多様性を重視する校則の見直しを行い、寄り添った支援を行う。		保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくり	○出前授業や学校Webページ等、教育活動の効果的な情報発信による募集人員の定数確保	B	
			○キャリアパスポートの活用及びキャリア教育の充実による進路実現100%		
			○ボランティア活動や課題研究等、地域社会と連携した体験的学習及び課題解決学習の充実		
【特別活動】 学校行事全体とし、ICTを活用し効率的・能率的な運営が行えた。体育的行事は、競技内容を球技中心へ再編成し、職員の負担軽減にも努めた。文化的行事では、機知に富んだ企画、ステージ発表を実施し、主体性や責任感の育成に努めた。また、キッチンカーを依頼し、販売マネジメント力やマーケティングに関して学ばせた。 生徒会役員・各実行委員が中心に、生徒の力が生かされた行事運営ができた。また、行事の振り返り等を通して各々の生徒が生徒会活動に主体的に参加する姿が見られた。 学校行事内容の精選等、日程および準備期間等を検討を図る。また、部活動の精査、顧問編成に検討が必要である。		生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくり	○カリキュラム・マネジメントを推進し、計画的かつ組織的な教育活動の向上	B	
			○PDCAサイクルを機能させ、学校評価と関連付けた教育内容の質の向上および教師の授業改善 「授業に対して肯定的に評価している生徒」の割合90%以上		
			○組織マネジメントの推進、教職員間の活発な意見交換による学校運営及び業務の改善		
		安心・安全な学校づくり	○生徒が安心して学習に取り組める環境づくり	B	
			○いじめ・体罰・災害等の防止及び迅速な対応		
			○ホームルーム、授業、二者面談及び三者面談等、生徒一人一人と向き合う丁寧な対応		
		働き方改革の一層の充実に向けた業務の効率化	○各業務について、教育の目的達成に適切な方法となっているか不断の見直し	B	
			○校内における情報の共有化の推進		
			○地域の人的・物的資源を活用した教育活動の推進		
三つの方針		具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校	B	B	地域のリーダーとなるべき資質の向上を目指して、総合的探究の時間等の活動を通して地域連携に積極的な力を入れる。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○次の6項目を推進することにより、鬼怒商業高校生としての誇りをもちつつ、将来、地域のリーダーとして社会に貢献できる「人財」の育成に努める。 1 生徒の個人的資質の向上に努める。 2 商業に関する専門的知識の育成に努める。 3 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。 4 生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに努める。 5 安心・安全な学校づくりに努める。 6 教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。	B		「人財」育成のため、各教科、各学科の主任によって教育課程編成委員会により編成された教育課程を着実に実行する。また、結城一高との連携によりより一層保護者や地域の期待と信頼に応えるための手段を模索する。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・)ポリシー	○世の中の動きや商業に興味があり、商業に関する学習をしたい生徒 ○簿記・情報処理などの資格や商業の学びを生かして進学・就職したい生徒 ○目標をもち、本校での学習をとおして自分の可能性を伸ばそうとする生徒 ○学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒	B		本校の差別化・ブランド化を推進するため商業科、情報ビジネス科の特色、魅力を中学生および地域の方々に周知する。また特色選抜も活用し、本校の求める生徒が集まるよう工夫する。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	国語の基礎的な知識・技能を習得するとともに、思考力や判断力を育成する。	定期テストや単元テストに加え、ノートや課題集等の点検を行い、学習内容の理解度を評価する。	A	B	【達成状況】 ○休職者が相次ぎ、２クラスを合併して会議室で授業をするという厳しい状況のなかで、1年生・2年生とも到達度テストの春→秋において、平均点・正解率とも向上し、基礎学力を定着させることができた。（3年生は平均点・正解率とも微減） ○到達度テストにおいて、特に読解の分野の平均点が向上しており、論理的に文章を読む力が身についた。
			文章を論理を正しく読み取ったり、わかりやすく説明したり、情報を適切に取捨選択したりする力を身に付けさせられるよう指導する。	A		
		様々な状況に応じて書いたり、話したり、聞いたりすることにより、表現力を育成する。	感想文や実用的な文等を書く授業や、スピーチや話し合い等の授業を通して、自分の考えを構築し、表現する機会を設ける。	C		
		自ら考え、主体的に学習する態度を養う。	ICTを活用し自己の学習を振り返ったり、学びを深めたりする助けとする。	C		
			積極的に漢字検定を受検する生徒を増やし、合格に向けて援助する。また、自治体が主催する俳句や短歌等の賞に応募する。	D		
	社会	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行い、生徒の学習意欲を高める。	I C T機器の効果的な活用によって、生徒が取り組みやすい身近な話題を学習課題として設定する。	B	B	【達成状況】 ○ICT機器を使用し、双方向性の授業が展開できた。 ○グループワークにより、生徒間でコミュニケーションをとる授業が概ねできた。 ○単元ごとに振り返りシートを活用し、基礎的な知識の定着ができた。
			対話型の授業を展開し、グループワークを単元ごとに取り入れる。また、発問を工夫したり、パフォーマンス課題を設定したりするよう心がける。	B		
		社会の形成者となるための資質を養う。	様々な資料を利用し、外部機関との連携を図りながら、成年年齢の引き下げにより生じる様々な問題や責任について考えさせ、知識を習得させる。	C		
		基礎学力の定着を図る。	授業内容の確認プリントやワークシートのチェックを通して、個々の生徒の能力に応じた、きめ細かい指導を行う。	A		
	数学	生徒の学習意欲・基礎学力を向上させる。	基礎基本的な学習内容を理解したあとの問題演習の時間を十分に確保することで知識の定着を図る。解説の際、電子黒板やタブレットを活用する。課題等を活用し家庭学習の機会を確保する。	B	B	【達成状況】 ○電子黒板やタブレットを活用することで、個別に苦手な分野を学習することができた。 ○机間指導を十分に行い、苦手な生徒への指導を個別に行うことができた。 ○生徒が質問に答えるなど生徒主体の授業をすることができた。 ○基本事項の復習を丁寧に行うことで、本時の問題への理解度が増した。
			授業中に発問や机間指導を行い、苦手な生徒にはその都度個別に指導する。ワークやプリントの提出状況から生徒の理解度を確認する。適宜小テストを実施し、単元ごとの理解度を把握する。	B		
		主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる。	問題演習の際に話し合い活動を取り入れ、意見を交流する機会を作る。また考えを黒板に記述させ発表させたり、その解答について考察する時間を設ける。	B		
	理科	基礎的な学力の定着を図る。	中学での内容にもさかのぼって復習しながら、理科に関する基本的な法則・公式を理解し、一般常識にもつながる基礎的知識をしっかりと身につけさせる。	B	B	【達成状況】 ○生徒の実態を把握し、中学での内容を復習しながら基礎的知識を身につけさせ、中学時代からの苦手意識の払拭を心がけた。 ○電子黒板やビデオ教材を活用することにより、生徒が授業に取り組みやすいように配慮し、興味関心を喚起させることができた。 ○生徒実験や演示実験などにおいて教員間で情報共有や授業観察を積極的に行うことができた。
		受け身ではなく、能動的な授業参加を促す。	生徒と教員及び生徒間のコミュニケーションを重視した授業を通して、生徒の発表機会を増やして自己肯定感を高めながら、理科に対する苦手意識を少しでも払拭する。	B		
		日常生活にあふれる科学的事象に対する興味・関心を高める。	I C T環境の有効活用及び、生徒実験・演示実験を適度に取り入れることで、科学全般に対する生徒の興味・関心を高める授業展開に努める。	B		
		物理実験室・化学実験室を整備し、他教科も含めた授業での有効活用を促す。	計画的に実験室の備品等の整備を進め、実験室等の活用を活発化して、実験・演習・映像教材視聴等の様々な形態の授業を取り入れる。他教科にも積極的に開放し、学校全体として有効利用を促す。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体づくり運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。	B	B	【達成状況】 体育 ○体力テストA及びBの割合は47.7%と目標の50%を達成することができなかったが、昨年度より3%多くなった。 ○卒業課題については補習等を行い、目標を概ね達成することができた。 ○実技研修として指導の仕方など適宜話し合いや共通理解を図った。 保健 ○各授業において身近なニュースを取り上げながら授業展開を図った。生徒の興味を引き、具体的に内容を理解し、思考・判断することに繋がったと感じる。
		できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率75%以上を目指す。	B		
		体育的学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。	A		
		よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。	B		
	保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	ICTを活用して話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。	B		【次年度の課題】 ○体力テストのA及びBの割合のボーダーを50%として、体づくりや持久走などの授業を通して体力を高める運動を取り入れたい。 ○体育館で行う種目で、ICTの活用をさらに進めていきたい。
	英語	基礎学力の向上	I C T機器を効果的に用いて言語活動の時間を増やし、基礎学力の定着と向上に努める。	A	B	【達成状況】 ○単元ごとにさまざまなかたちでテストを行い、勉強に対する前向きな意識づけをすることができた。また、電子黒板やGoogle Classroomなどを活用し、基礎学力の向上に努めることができた。 ○1年生の全商英検3級合格者は約40%という結果になったが、Google Classroomで教材を配信し、空き時間にも勉強できるようにしたことや次回への意欲を見せる生徒も出てきた。 ○コミュニケーション活動を多く取り入れ、特にティームティーチングでは必ず全員が話す機会を設けたため、受け身な姿勢が少しずつ主体的に変わってきた。
			単元ごとに評価問題等で知識の定着を確認し、課題を提出させることで、理解不足の生徒に対する継続的な指導に努める。	B		
		資格取得	1年生は全商英検3級合格者50%を目標に、上位の級の合格者も出るよう授業・課外等で効率的な指導に努める。情報ビジネス科の生徒及び意欲的な生徒には2級への積極的な取り組みを促す。	B		
		実践的コミュニケーション能力の向上	A L Tとのティームティーチングを最大限に活用し、リスニングやスピーキングのスキルと自信を高め、主体的にコミュニケーションを図る土台をつくる。	A		
			ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れ、他者との対話的なやりとりを通じて自らの考えを深めながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	B		
	家庭	主体的・対話的で深い学びを実現するために、基礎的・基本的な知識と技術を習得する	I C T機器を効果的に活用し、具体的にわかりやすい授業を展開する。	B	B	【達成状況】 ○書画カメラや電子黒板を、図表の説明や生徒の発表に活用することができた。 ○学習ノート等の提出物は単元ごとに点検し、未提出がないように指導することができた。 ○きゅうりの半月切りや厚焼き卵の実技テストを実施することで、基礎的な技能を定着することができた。 ○安全・衛生面に十分配慮しながら、調理実習をすることができ、生徒も積極的に取り組んでいた。 ○ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活に関心を持たせ、主体的に生活の改善・向上に取り組もうとする姿が約9割の生徒に見られた。
			プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。	B		
			実験・実習を通して、コミュニケーション能力を養い、協調性や自主・自立の精神を育成する。	A		
		家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。	B		
	商業	学力・指導力の向上を図る。	生徒一人一人の実態を把握し、「わかる」「できる」「楽しい」授業を目指し、知識の定着を図る。また、探究的活動を通してビジネスに関する課題を発見し、創造的に解決する力を育成する。	B	B	【達成状況】 ○「課題研究」を中心とした探究的学習の推進や、I C T機器を利用した基礎基本を重視した丁寧な指導をとおして「わかる」「できる」生徒が増えていく。 ○地域との連携した活動が継続できている。出前授業は9校の実施であった。 ○各科目の中で、対話的・協働的な活動によりコミュニケーション能力を身に付ける機会が増えて来ている。 【次年度への課題】 ○教育課程に準拠した指導の確立（個別最適な学び・評価）。 ○I C T（特にタブレット）の使用頻度を高め、活用する。 ○商業教育の広報活動を更に強化（出前授業・体験入学の工夫）。 ○ビジネスにおける実践力の育成を図るとともに、学んだことをキャリア教育につなげる。
			I C T機器を利用した授業の構築や授業研究を通して、授業改善を行い、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた指導力向上に努める。個別最適な学びと協働的な学びの実現。	B		
		商業教育の広報活動に努める。	地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解をさらに深めるために、体験入学や出前授業の内容を工夫して実施する。	A		
		ビジネスにおける実践力の育成を図る。	商業を学ぶ中で、ビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける。ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成し、キャリア教育につなげる。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
校務分掌	教務	ICT教育の5つのメリット（わかりやすい授業、学習の効率化、校務の効率化、個別・協働学習、情報活用能力）を活かすため、職員個々のタブレット機器活用度合いのばらつきを解消する。生徒の学習意欲や集中力アップをねらい、積極的にICT教育を活用しGIGAハイスクール構想の実現を目指す。	タブレットの活用場面を明確化することで、効率的な一斉学習を実現する。また、タブレットを活用することで、効率的な調べ学習や好奇心に合わせて自主的な学習の後押しする。	A	B	【達成状況】 ○各教科がGoogle Classroom等を活用し、週末課題や単元テスト、課題実力テストを実施した。課題の採点や評価、成績の管理等、生徒へのフィードバックがリアルタイムで行えるため使用頻度は向上していると感じる。 ○「指導と評価の一体化」を念頭に置いた観点別評価の適正な評価基準を以下「評価の観点の明確化」「評価規準の具体化」「評価方法の多様化」とおり設定できている。特に「評価方法の多様化」においては、ペーパーテストだけでなく、レポート、プレゼンテーション、実技など、多様な方法を用いた工夫ができています。 ○「到達度テスト」の結果を分析すると、以前からではあるが1学年から2学年にかけては基礎学力の向上は見られるのだが、進路を決定する2学年から3学年にかけて学力の向上が停滞する傾向にある。また学校生活アンケートの結果によれば、家庭学習の定着習慣が少ない。 ○定期考査の実施回数を見直すなどして授業時間の確保に努めた。 ○課題実力テストを実施し、学びへの意欲向上に繋がった。 ○2クラス同時展開の授業等を実施せざるを得ない状況が発生し、授業計画・実施において多くの生徒に負担をかける事となった。 ○定期考査の取り扱いについて検討をおこない、取扱規定の作成やシュレッダーの使用制限、教務ロッカーへの施錠保管するなど適切に管理することができた。 ○考査規定の見直しをはかり、安心して定期考査等へ臨める環境づくりに務めた。 ○学校行事やその他のイベントなどの迅速な情報の公開に努めた結果、多くの情報と本校の取組を積極的に情報発信することができた。
		「指導と評価の一体化」を念頭に置いた観点別評価の適正な評価規準の作成及び「単元別指導と評価の計画」の導入とその確実な運用。	昨年度の「単元別指導と評価の計画」による観点別評価を検証し、それ踏まえて改善をおこない運用する。	A		
		基礎学力の定着を図り、学業不振の転退学者の減少に努める。	「到達度テスト」を有効活用し、基礎学力の向上を目指す。また、スタディサプリを積極的に活用し、家庭での学習に取り組む機会を設け、あらゆる場面で学習習慣が定着できるよう促す。	B		
		生徒の個別最適な学習の支援および実現	生徒の学習能力差に応じた学習内容の提示し、放課後の課題等、個別的な学習活動を支援する。	A		
		授業時間の確保に努める。	学校行事の精査を行い、必要な時期に必要な授業時間が十分確保できるよう努める。	B		
		情報の保護・管理に努める。	茨城県が定める個人情報の取扱いに係るガイドライン、および県立学校情報セキュリティ対策基準に則り学校における情報管理の徹底を図る。	B		
		学校ホームページの適正な運営と積極的な活用によって教育活動の公表に努める。	学校運営にかかわる情報発信の窓口としての役割を果たし、教育目標の達成のために必要な情報をねらいをもって伝え、本校教育活動のPRをする。	B		
	生徒指導	挨拶の活性化及び時間厳守に努める。	登校時の昇降口及び廊下等での挨拶を教職員全体で積極的に促す。また、時間厳守の大切さを様々な場面で伝え続け、登校時や授業開始の遅刻者数を減らす。	B	B	【達成状況】 ○ここ数年、規範意識の高い生徒の割合が増えており、今年度も一部の生徒を除き、概ね生徒は落ち着いた生活を送っていることから、学校全体としての秩序は保たれている。 ○昨年度の課題の一つであった「服装指導票」が、今年度はどの学年においても有効に活用されはじめ、生徒指導における学年間の格差はかなり解消され、学校統一の基準で指導しようという意識をもった教員の割合が増えてきたように思われる。 ○今年度から、毎月1回「学校生活アンケート」をformで実施するようにした。それによって、盗難や人間関係トラブルの早期発見につながるという成果も得られた。 【次年度への課題】 ○自転車に施錠をしない生徒や決められた場所に置かない生徒の割合が少なくなく、実際自転車の無断借用や盗難などの問題も数件起こってしまったことを踏まえて、駐輪場の見回りを強化し、施錠の徹底やヘルメットの着用を促しながら、自転車の運転マナー向上を促したい。 ○授業開始時のスマホ提出の確認、移動教室時にスマホを持ち出さず、教室の施錠及び消灯やエアコンOFFの徹底を呼びかけていきたい。 ○「生徒指導部」から「生徒支援部」への改名を機に、生徒に寄り添いサポートする意識を高め、校則や内規の見直しを、昨年度に引き続き、年度途中の運用変更も含めて、柔軟に進めていきたい。 ○SCに加えて、SSWを有効に活用するための学年等への働きかけを検討していきたい。
		校則の遵守及びマナーある行動を促す。	月1回の頭髮服装指導に加えて、「服装指導票」を有効に活用しながら、日頃から就職試験等に対応できる身だしなみを定着させる。また、マナーある行動を促しながら、他人を思いやる心を育む。	B		
		ネットモラルを定着させる。	スマホ安全教室、探求の時間、ホームルーム等を通して、SNSの使い方、インターネットに潜む危険を指導し、ネット上のトラブルを未然に防ぐ。	B		
		交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ。	自転車点検、交通安全講話、バイク実技講習会等を実施すると共に、校外立哨指導やHR等で日頃から交通安全に関する注意喚起をし、危険が伴う「ながら運転」などをなくし、交通事故件数を減らす。	B		
		教職員間の情報交換を密にして、問題行動を未然に防ぐ。	職員の学年内外の風通しをよくして、生徒間のトラブルや問題行動が起きないように素早く対処する。また、盗難事件や問題行動が起こってしまった場合には、個ではなく、組織的に迅速に対応する。	A		
		教育相談活動を充実させる。	年4回の面談（2回は担任及び副担任との二者面談、2回は保護者面談）に加えて、SCによる生徒、教員、保護者へのカウンセリングの場を用意し、生徒が一人で悩みを抱えこまない環境を作る。	A		
	特別活動	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。	A	B	【達成状況】 ○全体を通して、生徒会役員・実行委員が活躍し、生徒の意向が十分に生かされた行事運営ができた。また、生徒総会に向けての意見集約、行事後の振り返り等を通して各々の生徒が学生会活動に主体的に参加する姿が見られた。 ○体育的行事では、競技内容を球技だけではなく、背渡りなどの体育祭の種目も取り入れて実施した。 ○野球応援では全校応援を実施することができ、一体感のある応援ができた。 ○文化的行事では、保護者4名まで限定で公開文化祭を行った。模擬店では初めてキャッシュレス決済を導入し、現金の取り扱い手間を省き運営の効率化を図るとともに、生徒たちがキャッシュレス決済における消費者・事業者それぞれの関わり方を実体験で学ぶ機会となった。 ○来年度から始まる結城一高との「学校連携型システム制」導入に先駆けて、生徒会役員による文化祭の相互視察、チアダンス部の演技、吹奏楽部の演奏、とうむぎあいすのPR・販売を行い、結城市イルミネーション事参に合同で参加した。 【次年度への課題】 ○体育的行事、文化的行事の開催方法、日程の検討 ○結城一高との学校行事、部活動連携 ○部活動連携を視野に入れた、顧問編成の検討
		部活動の適正な運営や効率的・効果的な活性を図る。	多様化する生徒の活動ニーズに応えるため、可能な限り短時間に、合理的かつ効率的・効果的な指導を行い、部活動以外の様々な活動にも参加できるよう対策を講じる。	A		
			医・科学的観点を最優先に考慮し、適切な活動計画に基づいて指導する。	B		
		学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	各ホームルーム役員等を中心に話し合いの機会を設け、考え、判断し、必要なことを決定していくなど、活動を活性化させることで、主体的な学校行事の参加を促す。	B		
		生徒会活動を通してキャリアパスポートを支援する。	多くの行事を通して、自ら企画立案し、振り返りをしながら主体的な活動ができる力を育む。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
校務分掌	進路指導	進路について理解を深めさせ、個々の能力・適性に合った進路決定をさせる。	進路ガイダンスの時期・内容を検討し、学年との連携を図りながら実施に努める。	A	B	【達成状況】 ○今年度から県内企業のみ一人二社制が導入されたが、混乱することなく活用できた。 ○進路ガイダンスなど学年との連携によって、滞りなく実施できた。 ○インターンシップの時期を秋に移行し、円滑に実施できた。 ○オープンキャンパスや企業説明会など生徒が主体的に取り組むことができた。 ○企業、上級学校などの情報を生徒に対して的確に提供できた。 ○Webによる求人票公開は速やかに実施できた。
			上級学校のオープンキャンパスや企業見学会への参加を促し、進路選択のミスマッチを防ぐように努める。	A		
			「進路の手引き」を発行し、進路希望の実現に向けて有効活用する。	B		
		進路の情報提供を充実させる。	企業、ハローワーク、上級学校との連絡を密にし、ICTを活用しながら生徒に的確な情報を提供する。	B		
		進路資料室を効果的に活用する。	閲覧資料の整理に努め、生徒・職員・保護者が必要な情報を入手できるように、進路情報誌や学校案内及び会社案内等を充実させる。	B		
	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	衛生管理の向上を図り、感染症等の予防対策に努める。	B	B	【達成状況】 ○学校ガイドラインのもと、衛生管理、感染症対策に努めた。 ○各種健康診断、各種環境検査（2回）を実施した。 ○外部講師を招いた性教育講演会（10月）を実施した。 ○防災避難訓練（11月）結城消防署の指導のもと実施した。 ○ワックスがけ、モップ交換、カーテンクリーニング等、効率的に実施できた。 ○保健室運営は、来室生徒の状態を把握し、処置等、十分に対応できた。 ○購買、欠席報告等に対応した。
			諸検診の効果的な実施に努める。保健室の効果的な運営に努める。	A		
			外部講師を招いた性に関する講演会を実施する。	B		
		学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。	B		
		清潔で安全な学習環境を目指し、環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。	水質検査および室内環境検査等を実施する。	A		【次年度への課題】 ○危機管理マニュアルの定期的見直し。 ○養護教諭不在時の当番制の見直し。 ○教室の換気の徹底、C o 2測定器の有効活用。
			清掃用具を速やかに補充し、校内美化に取り組む環境を整える。環境美化への主体的な取り組みができるよう、委員会活動などを通して働きかける。	B		
	図書	図書室の環境を整備し、学習活動及び各種活動を支援し、情報収集・選択・活用能力を育成する。	蔵書の配置・装飾の工夫や、資料の整理・迅速な手続き処理などにより図書室を利用しやすい環境にするように努める。	A	B	【達成状況】 ○昨年度から新たに行っているイベントや図書啓発の掲示等を今年度も継続して行うことができた。 ○図書委員の生徒が、主体的に自分たちで考えたり工夫して図書の貸出業務や図書室の掲示などを作成、掲示を行ってくれて、年間を通じて滞りなく運営ができた。 ○書籍を読むだけでなく、レポート作成、調べもの、課題をするなど、生徒がそれぞれ目的に応じて図書室を利用する姿が多く見られた。
			1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施し、図書への関心を喚起する。	B		
			新刊本の表紙や読みどころを表示するとともに、情報機器の利用を工夫し放課後等の活動に活用する。	B		
			リクエストボックスやアンケートをとおして購入希望図書を募り、希望の60%以上を購入する。	A		
		読書習慣の推進と育成を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努める。	生徒が構成に関わった「図書室だより」を年間3回以上発行して読書のよさを周知し、読書に対する関心を高める。さらに、図書館関係行事の広報に努める。	A		【次年度の課題】 ○数十年以上置いてあると思われる書籍が多くあるので、廃棄基準に従い順次廃棄を進めていきたい。
			図書室内の装飾・蔵書点検・環境整備・リクエストボックスの回収等における図書委員の活動を通じて、主体的な活動を推進する。	B		
	渉外	各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。	在校生の保護者を対象とした学校公開日をはじめ、各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。	B	B	【達成状況】 ○会議をはじめ、PTA関連の各種行事を無事に実施することができた。 ○役員との意見・情報交換を綿密に行えた。
			学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を深める。	A		
			高P連やさわかみマナーアップ運動等の学校内外への保護者の積極的な参加を促し、得た情報を共有する。	B		
			PTA支部研修会を実施し、保護者同士・職員の情報交換を行い、協力体制を確立する。	B		
						【次年度の課題】 ○次年度の本部役員選出の効率的な方法を模索する。 ○未実施行事の企画改善をはかる。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
学 年	一 学 年	時間厳守の徹底	適切な起床・就寝時間等基本的生活習慣を確立し、時間の大切さを意識させ、学校生活において時間に遅れず行動することを習慣化する。	B	B	【達成状況】 ○全体的に落ち着いて生活ができた。 ○授業においてもルール・時間を守り、妨害行為などなく意欲的に学習する環境を整えることができた。 ○進路ガイダンスやバス見学会などを通して自らの進路に対して前向きに考えることができた。 【次年度への課題】 ○学校生活に慣れ、徐々に欠席遅刻が増えた。年間を通して生活習慣を確立できるように指導したい。 ○進路実現に向けて、一般常識など基礎的な教養を身につけさせ、3年次に生徒一人一人が幅広い進路選択ができるようにしたい。 ○全員が主体的に資格取得に向けて学習できるように指導していきたい。
		コミュニケーション能力の育成	挨拶を励行し、学校行事等を通して生徒同士のコミュニケーションを密にするとともに、相手の気持ちを考えて行動する共感力を育成する。	B		
		規範の順守	本校のルールを理解し、守る大切さを指導する。また、誠実で信頼される人物像を目指し、社会規範意識の向上に努めていく。	B		
		主体的に学習する態度を育む	授業に意欲的に取り組み、自ら考える姿勢を身に付けさせる。また目標を持って検定試験に臨み、多くの資格を取得できるよう援助する。	B		
		進路意識の醸成	LHRや進路行事を通して、必要な情報を提示し、将来を見据えた目標を設定させる。	B		
	二 学 年	基本的生活習慣と規範意識の確立	集団生活において、時間と学校のルールを守って行動できるようにする。また社会規範意識の向上に努める。	B	B	【達成状況】 ○学校生活において、ほとんどの生徒が規則を守って行動することができた。 ○基礎学力を定着させるために、オンライン教材を積極的に活用した。また資格取得に向けて、生徒たちが意欲的に学習する姿が見られた。 ○進路講演会や進路ガイダンス（模擬授業）、インターンシップや合同企業説明会など、生徒のニーズに応じて進路行事を適切に行うことができた。 【次年度への課題】 ○1年次より、欠席や遅刻が目立った。進路決定に向けて、自己管理の大切さをより一層指導していきたい。 ○人間関係のトラブルが度々起きた。（成人年齢に達するので）他者を尊重する態度や共感力をしっかり身に付けさせたい。 ○進路実現に向けて、生徒一人一人の希望に対応できる学年の体制を、進路指導部と協調して構築していきたい。
		コミュニケーション能力の育成	挨拶を励行し、自分の考えや気持ちを適切に言葉で伝えるときともに、共感を持って相手の話に耳を傾ける態度を身につける。	B		
		学校行事への意欲的な参加とリーダーシップの育成	学校行事を通して、本校生としての帰属意識を高め、学校生活への充実感を得る。また、各特別活動においてリーダーシップを発揮し、中心となって活動できるようにする。	B		
		主体的に学習する態度の育成	オンライン教材を活用するなどして、自主的に学習に取り組む姿勢を育成する。また、各自が目標を持って資格取得に取り組めるよう支援していく。	B		
		進路実現への準備	進路ガイダンスやインターンシップを通して、具体的な進路先のイメージを持てるようにし、進路意識を高める。	B		
	三 学 年	生徒の希望する進路実現	必要な進路行事を、適切な時期に実施できるよう、学年職員全員で協力して取り組む。個々のニーズに応じて適切な助言を与えるなど、きめ細かいサポートで一人一人を支援する。	A	B	【達成状況】 ○進路の実現に関しては、学年だけでなく、学校全体で、きめ細やかな面接指導等をした結果、ほとんどの生徒が高校卒業後の進路を決定することができた。また進路指導部と連携をとりながら円滑に生徒や保護者に対応することができた。 ○資格を活かし、全商推薦を利用した受検方法で、大学に進学させることができた。 ○大部分の生徒は校則をきちんと遵守し落ち着いた学校生活を送る事ができ、基本的生活習慣も定着した。 【次年度への課題】 ○進路決定後、欠席遅刻が増え、怠学傾向になった生徒が見受けられたので、決定後も気を緩めず、社会人になるための自覚をもって、学校生活を行えるようにしたい。 ○進路実現に向けて、生徒が自らスケジュールを立て、計画的に面接練習等を実施する。 ○今年度は高度資格が取得できなかったので、1、2年次から綿密な学習計画を立てる必要がある。
			必要に応じて保護者を含めた面談を実施し、就職者の早期離職を減らす指導や、進学希望者が学費の面で進学を断念したりせずにはむよう、奨学金などの支援について保護者ときちんと連携できるようにする。	A		
		社会人となるために必要な知識やマナーの習得	各教科と連携を図り、一般常識や、社会生活において必要な知識の定着に努める。	B		
			商業科目の知識を活かし、社会で役立つ I T パスポートなどの国家資格や、全商簿記取得に積極的に取り組ませる工夫を行う。	B		
			HRや集会を通して、社会人として必要なマナーについて周知する。また、他者を思いやり協調性を重んじる寛容な精神を身に付けられるよう、日常生活を通じて指導する。	B		

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った